現代自転車考

目的が違えば機能も違う!? タイプ別比較。

速さ、軽さ、乗車姿勢…。進化する自転車の「今」をまずは理解しよう。

自転車にはさまざまな種類があり、大きくはロードバイク・クロスバイク・マウンテンバイクなどの「スポーツ車」と、一般的にママチャリと呼ばれる「軽快車」などに分類されます。それぞれに目的が異なるため、それだけ付帯する機能も変わってきます。たとえばロードバイクはアスファルトの長い距離を速く走ることを目的とするため、極限まで「軽さ」を追求。ロードバイクにカゴやスタンドが無いのは、最小限の部品によって軽く、速くを実現するためです。また、同じスポーツ車であるマウンテンバイクは、石や土がむき出しの山道を上り下りするため、タイヤが太く、サスペンションが付いて、悪路にも耐える堅牢な作りになっています。このようなそれぞれの走り方に応じて設計されているスポーツ車とは異なり、誰もが安定して走行できることを重視したのが軽快車です。日常生活でラクに荷物を積んで移動できることを第一の目的としているため、カゴや泥よけがあり、どっしりと安定感が高い反面、重いという特性があります。自転車を選ぶ際には、まず自分がどんな乗り方をしたいのかを考えることが、相性のいい一台と出合えるコツかも知れませんね。

【ロードバイク】重さ:約6〜9kg

Roadbike

ロードとは公道を表し、ツール・ド・フランスなどの競技にも使われるタイプ。
速さを競うため部品を最小限に留めて軽さを実現している。

サドル

座ることよりも脚の動きを考えた設計。

乗り心地よりも脚の動きを妨げずに効率的に走ることを重視しているため、薄い、細い、小さい形状。乗り始めはこの形に慣れず、お尻に痛みを感じる人も多い。

ハンドル

前傾姿勢によって風の抵抗を小さく。

風の抵抗を受けないよう前傾姿勢になるドロップハンドルが主流。ロングライド用に使われることが多いため、疲れをためないようハンドルを握る位置によって乗車姿勢を変えられることも特徴。変速操作もここで行う。

変速機(外装)

前後のギア調節で高い駆動力を実現。

このタイプは外装変速と言い、大抵前ギアで2〜3段、後ろギアで8〜11段のものが主流。軽さの追求によってむき出しになっているため、クリーンアップや注油などの定期的なメンテナンスが必要。

ペダル

クリート付きシューズに対応。

自転車と人の一体感を高め、脚の引き上げをスムーズにするため、クリートという金具付きのシューズを利用できるように設計。ペダルそのものも軽くて小さい。

タイヤ

細く、軽く、高い空気圧でスムーズな走りに。

25㎜から28㎜幅と軽快車に比べて細い。凹凸の無い接地面形状で、乗り心地よりもスピード重視。

【軽快車】重さ:約15〜20kg

Citycycle

スカート姿でも乗り降りしやすく、荷物を積んでも安定して走れるように設計。
重量があるため、長距離走行には適していない。

サドル

しっかり支える高いクッション性。

座面に厚みがあり、下にはバネを設けたクッション性の高い形状。お尻をしっかり支えて乗り心地の良さを高めている。

ハンドル

上体を起こした姿勢で手を置くポジション。

上体を真っ直ぐ起こした姿勢で乗るため、自然に手を伸ばして握れるポジション。ブレーキレバーにも手が掛かりやすい設計で、安定した姿勢で走行できる。

変速機(内装)

内装変速機なら長期間メンテナンス不要。

軽快車では内装3段が主流。変速機構がすべてハブの内部に収まっているため雨や泥に強く、メンテナンスが少なくて済む。他に5・7・8段があり、用途に応じて選べる。

ペダル

大きめのサイズで面で足裏を支える。

プラスチック製で軽く、大きな形状のため、足の裏を面でしっかり支える。

タイヤ

乗り心地や耐久性を重視。

軽快車のタイヤは、日常使いのさまざまな路面に対応するバランスのとれた設計。